

# 金融市場の混乱は一時的 ～新興国の政策に対する信認向上がポイントに

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

先週末から今週にかけて、新興国市場の混乱が世界の金融市場を大きく動揺させました。

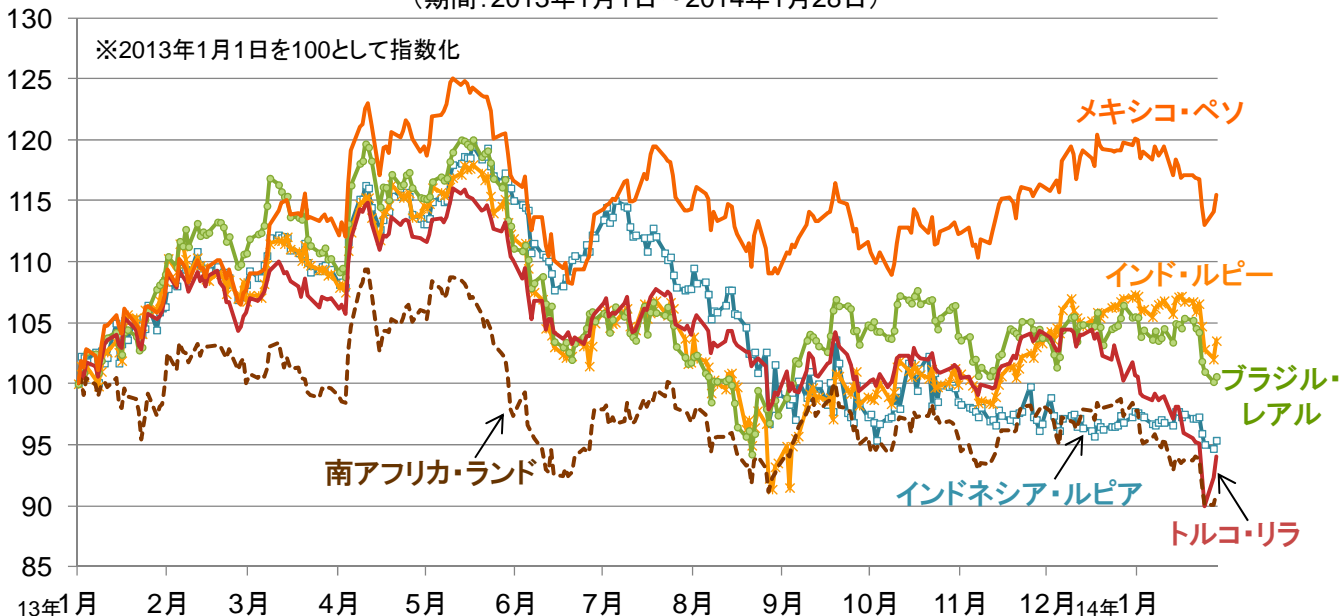
中国景気に対する懸念が高まったことに続き、アルゼンチンが自国通貨の下落を事実上容認する政策をとったことから、新興国に対する警戒感が一気に拡がりました。加えて、FRB(米連邦準備制度理事会)が29日まで開くFOMC(米連邦公開市場委員会)では、毎月の資産購入規模について100億米ドル減額の決定が見込まれており、新興国からの資金流出懸念が意識されやすい状況にあったことなども影響したとみられます。

昨年夏には、米国の量的緩和の縮小懸念が高まったことを受け、米国金利が上昇し、新興国を中心に世界的な混乱を引き起こしたほか、先進国・新興国を問わず、景気回復のブレーキとなりました。しかしながら、足元の米国金利は比較的落ち着いた推移をしていることから、今回の新興国市場の動揺は、新興国自身の経済ファンダメンタルズの悪化、経済政策への信認の低下といった面が大きく、この影響が先進国を中心とした世界経済の回復を阻害するものになる可能性は比較的小さいと考えられます。

なお、最近の新興国通貨の動きを見ると、各国通貨が一様に売られているという状況にはありません。利上げによってインフレの抑制に一定の成果を上げつつある国や、金融政策運営を巡る改革が進められている国などはそれぞれの政策を評価するように、通貨の動きも個々の国の事情を反映するものになっていると考えられます。おりしも、28日には、トルコ中央銀行が政策金利を引き上げたことで、金融市場ではトルコが通貨防衛の強い姿勢を示したと受け止められ、通貨リラは急上昇しました。こうした各国の政策に対する信認を高めていくことが、新興国通貨を支えていくものとみられ、各国の動向が引き続き注目されます。

## 主要な新興国通貨(対円)の推移

(期間:2013年1月1日~2014年1月28日)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。